

## 企業調査レポート

安藤証券株式会社  
 調査部：土田 陽一  
 平成 24 年 1 月 27 日

### ケイティケイ ( 3 0 3 5 )

業績推移 ( 連結ベース、単位は E P S、配当が円、他は百万円、予は会社側予想 )

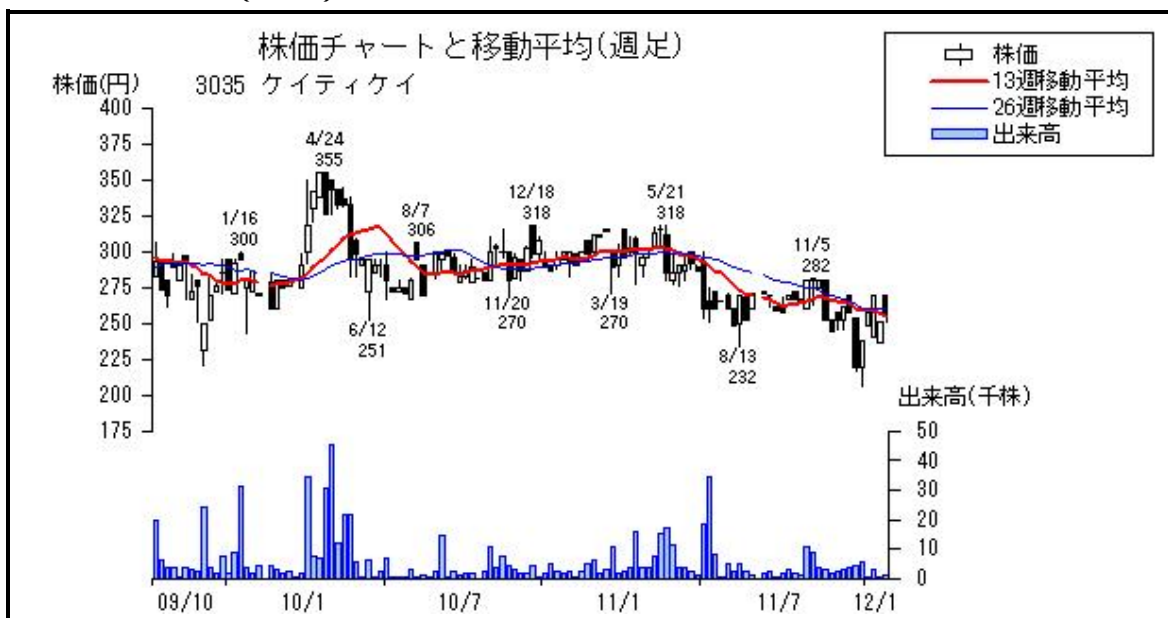
決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	E P S	配当
10/5	8,983 -5.6%	184 +51.2%	173 +49.8%	94 +61.2%	26.08	14.00
11/5	8,692 -3.2%	49 -73.3%	44 -74.4%	18 -80.2%	5.17	14.00
12/8 予	11,109 -	103 -	94 -	44 -	12.14	10.00

2012年8月期は決算期変更により15カ月決算となるため、前年同期比較はなし

各種指標 ( 株価、配当利回りのカッコ内は日付 )

株 価	256 円(1/26)	発行済株式数	3,675 千株(11/11 期)
連結 P E R	26.4 倍(12/8 期予)	連結 B P S	562.41 円(11/11 期)
連結 P B R	0.5 倍(11/11 期)	連結 R O E	0.9%(11/5 期)
配当利回り	3.1%(1/26)	上場市場	大証ジャスダック

株価チャート ( 週足 )



本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、銘柄の選定、投資判断の最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料は、信頼出来ると考えられる情報に基づいて作成されていますが、安藤証券は、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後、予告なく変更される事があります。事前の了承なく複製または転送等行わないようお願いします。

## 会社概要

オフィス用品や文具の企業向け販売を事業内容としており、製造子会社も有するリサイクルトナーの販売を主力とする。リサイクルトナーの回収から製造、販売までの一貫体制を構築していること、インターネットを活用した受発注システム「はっするネット」を開発したこと、メールセキュリティ商品を自社開発したことなどが特徴で、「はっするネット」を基盤としたF C（フランチャイズ）展開にも着手している。

## 業績動向

2011年6 - 11月期（中間期）の連結業績は、一般事務用品や電化製品、IT商品が順調に推移した一方、震災などを契機として顧客企業の消耗品を買い控える傾向が一段と強まり、主力のリサイクルトナーで販売本数が前年同期比2.3%減となったほか、価格の低下傾向も継続、新品トナーや紙製品などの販売も苦戦し、売上高は当初の会社側予想を下回り、前年同期比3.4%減となった。利益面では、リサイクルトナーの生産性向上などで売上総利益率が前年同期並みを確保、営業利益、経常利益、当期利益とも前年同期比5割超の減益となったものの、当初の会社側予想水準を確保した（営業利益が前年同期比58.4%減、経常利益が同56.2%減、当期利益が同61.6%減）。

2012年8月期通期について会社側は当初の予想を修正せず、据え置きとした。リサイクル、新品とも主力のトナーが苦戦しており、売上高は会社側予想を下回る可能性が高いものと思われるが、一般事務用品などで「はっするネット」カスタマイズ化（次項参照）の効果が表れており、リサイクルトナーの生産性向上が引き続き見込まれることから、営業利益、経常利益、当期利益については会社側予想水準を確保する可能性が高いものと思われる。

## 中期展望

同社は昨年1月より「はっするネット」のF C展開に乗り出すことを決定、昨年末時点で全国13社とF C契約を締結しているほか、東京都内の営業拠点を再編、首都圏の営業体制を強化している。また、「はっするネット」を顧客企業のニーズに応じた仕様とするカスタマイズ化を推進しており、運用社数、売上高とも順調に拡大している。足元では震災などを契機とする買い控え傾向の強まりがこれらの効果を打ち消す結果となっているが、前述のように一般事務用品などではすでに効果が表れていることから、今後の動向が注目されるものと思われる。

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、銘柄の選定、投資判断の最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料は、信頼出来ると考えられる情報に基づいて作成されていますが、安藤証券は、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、今後、予告なく変更される事があります。事前の了承なく複製または転送等行わないようお願いいたします。